

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 (社会福祉学科介護福祉専攻)

○令和5年度の後期科目・通年科目についての教育課程の適切性の検証結果は次のとおりである。

(検証事項：内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期、GIO との整合性、カリキュラムの問題点等)

【成果・できていること】

- ・各科目の隣接科目との関連性をふまえた開講時期（年次）の検証結果から、一部の科目（障害者の生活の理解Ⅰ、障害とコミュニケーション技法）を除き、教育内容や進捗については、概ね適切であると判断される。
- ・介護福祉士養成課程における、科目群（「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「介護」「医療的ケア」）の教育内容については、指定規則における教育に含むべき事項、教育上の留意点に準じた内容が確認され、いずれの科目群においても適切であると判断される（一部教育内容を強化する必要性については、下記課題に記載）。

【課題・できていないこと】

- ・「高齢者の生活の理解Ⅱ」について、地域における高齢者の生活支援を扱う科目内容の特性から、DP2（地域社会の変化に関心を持ち、福祉の担い手として主体的に発展・向上させることができる専門的知識・技術を有していることが必要である）の追加について検討する必要がある。
- ・「障害者の生活の理解Ⅰ」「障害とコミュニケーション技法」において、科目担当者から学習内容と開講時期等について検討する必要があるとの意見があった。これについて、講義内容のほか、介護実習との関連による学習の順次生という観点から、検討を行う必要がある。
- ・総括科目「介護福祉演習」において、学力評価試験の結果から、科目群「社会の理解」を苦手としている学生が多いことが指摘された。これをふまえ、隣接する科目を含めて学習内容の強化をはかることが必要である。

【その他・今後の検討事項等】

- ・科目群「総括科目」において現在「開講せず」となっている科目（社会福祉演習）の扱いについて、ひきつづき検討を進める。
- ・2年間の学習を総括するうえで、教員だけでなく学生にとっても理解しやすいカリキュラムツリーの作成と活用について、ひきつづき検討を行う。